青少年国際交流事業事後活動推進大会 日本青年国際交流機構第38回全国大会 第29回青少年国際交流全国フォーラム鹿児島大会 (Glocal Youth Leaders Summit)

Glocal Youth Leaders Summit



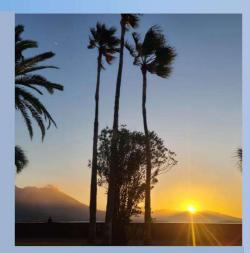
# 鹿児島から未来へ。 "ワクワク"から踏み出す私の第一歩。

2022/12.3sat 【第1部】13:00~15:15 【第2部】15:25~17:15

# 報告書







# 目次 (ページ)

本大会について3
大会テーマ4
内閣府青年国際交流担当室参事官挨拶5
日本青年国際交流機構 (IYEO) 会長挨拶6
一般財団法人 青少年国際交流推進センター理事長挨拶7
第 38 回全国大会(鹿児島県)鹿児島県青年国際交流機構実行委員長挨拶8
第 38 回全国大会(鹿児島県)鹿児島県青年国際交流機構会長挨拶9
日程(全体スケジュール)10
第 1 部 開 会 式 11
第 1 部 基調講演12-14
第1部 パネルディスカッション15-19
第 1 部 閉会式20
第 2 部 開会式21
第2部 スーパーパワー・ワークショップ22-24
第 2 部 閉会式25
参加者アンケート26-29
日本青年国際交流機構&鹿児島県 IYEO の活動紹介30-33
鹿児島の魅力紹介34-39
実行委員名簿40

## 本大会について

#### 1. 開催趣旨

内閣府、地方公共団体等が実施した青少年国際交流事業の既参加者、国際交流に関心のある青少年等が、社会活動に取り組むために必要な知識と意欲を高め、情報交換を行うとともに国際社会や地域社会への貢献を考えることにより、それぞれの活動を通じて、次世代の人材育成、地域の国際交流及び国際親善の促進に寄与することを目的とする。本全国大会(Glocal Youth Leaders Summit)は、内閣府青年国際交流事業参加後の青年の事後活動研修を兼ねる。

2. 主催・共催・運営事務局・協力・後援

第1部

主催:内閣府

共催:日本青年国際交流機構

運営事務局:一般財団法人青少年国際交流推進センター

日本青年国際交流機構第 38 回全国大会(Glocal Youth Leaders Summit)

第1部実行委員会

協力:鹿児島県青年国際交流機構

後援:鹿児島県、鹿児島県教育委員会

第2部

主催:日本青年国際交流機構、一般財団法人青少年国際交流推進センター

運営事務局:日本青年国際交流機構第38回全国大会(Glocal Youth Leaders Summit)

第2部実行委員会

協力:内閣府、鹿児島県青年国際交流機構

後援:鹿児島県、鹿児島県教育委員会

#### 3. 主管

日本青年国際交流機構第38回全国大会鹿児島県実行委員会

#### 4. 期日

令和 4 年 12 月 3 日(土)

### 5. 会場

オンライン(Web 会議システム Zoom cloud meetings を利用)

#### 6. 対象者

内閣府及び地方公共団体が実施した青年国際交流事業の既参加者、国際交流に興味がある青少年等

#### 7. 問い合わせ先

鹿児島大会実行委員会:gyls.committee@gmail.com

## 大会テーマ

## 「鹿児島から未来へ。"ワクワク"から踏み出す私の第一歩。」

地方の青年にとって、選択肢があることを知ることは非常に重要なことである。現代では、場所にかかわらずインターネットで数多くの情報を入手できるが、自分の興味分野に関係するネットワークやコミュニティを直接知っているかどうかが情報の質を左右する。

また、世界を舞台に活躍する方や社会貢献活動をする方など身近にロールモデルとなるような存在が見つけにくいために、目指したい目標や人物像に気付かない・触れる機会がないのも地方の課題であると考えられる。GYLS に参加することで、多くの活動家の話を聞き、ロールモデルとなる人と出会い、そういう方達がどのような動機とパッションをもって地域やそれぞれのコミュニティで活動しているかを理解する機会となることだろう。同世代や幅広い世代の人たちと意見交換をすることで、参加者が自分自身の興味分野に気付き、出会い、選択肢を知ることで自分の世界が広がることを期待している。

内閣府青年国際交流事業の既参加青年にとっては、同事業の参加経験を活かし、未来 を担う青年をリードすることにより、自身がグローカルリーダーのロールモデルとして 青年たちと接することによる成長と自覚を育む機会となることを期待している。

このイベントを通して、参加者がそれぞれの学びを自分が所属するコミュニティ、または新たに創造する自身のコミュニティに活かしていくことを目指している。

メインターゲットとする中・高・大学生が、自分の興味分野が何なのか、その分野で活躍している人がどういうことを学んできたのか、興味分野についてもっと深く学ぶにはどうすればよいのか、どのような選択肢があるのかを知る・考えるきっかけになってほしいと考える。

また、今日からできるアクションを自分自身と他の参加者などへ宣言することにより、このイベントをきっかけに一歩踏み出すことを後押したいと考えている。

\*グローカルリーダーとは: 10代~30代、自分の周りも世界も身近に感じて考えようと 試みる、地域視点で、世界にアクションを起こすリーダー、具体的行動を起こすことが できる人、地域に貢献する人材、周囲を巻き込む、想像力をもつ、発信・表現すること ができる人材

## 内閣府 青年国際交流担当室 参事官挨拶

青少年国際交流事業事後活動推進大会 鹿児島大会報告書に寄せて

内閣府青年国際交流担当室 参事官 田中 駒子

本年の青少年国際交流事業事後活動推進大会は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により3年目のオンライン開催となりましたが、大変多くの方に御参加いただき、とても濃密なプログラムであったと感じております。

今年度から全国大会は「グローカル・ユースリーダーズ・サミット」と題して行う新たなステージに入りました。本大会では、内閣府青年国際交流事業の参加青年はもとより、「地球規模の視野と草の根の地域の視点を持って次世代グローバル・リーダーとして活躍したい」という意欲をお持ちの皆さまに国内外からお集まりいただき、各々の経験を共有しながら意見を交わすことを通じて、参加者の皆さまの今後の活動の幅をさらに広げていただく機会となったものと思っております。

新型コロナウイルス感染症への対応として、社会経済活動と感染防止対策の両立が求められる中で、今後はウィズコロナの国際交流を行うことが必要になります。本大会では、様々な工夫を凝らしたオンライン空間での交流が企画され、今後の国際交流や事後活動の可能性を広げてくれたものと思います。また、SDG s を始めとする地球規模での社会課題が山積する中にあっては、国際交流を通じて得たグローバルな視点を活かして、現場となる地域での課題解決に向けた実践を行う人材を育成するという視点が、今後一層重要になると考えております。

開会式で塩田鹿児島県知事から御挨拶を頂戴し、本大会の開催を歓迎いただいたのを皮切りに今年度のテーマ「鹿児島から未来へ。"ワクワク"から踏み出す私の第一歩。」に基づく各プログラムが展開されました。

基調講演では、鹿児島県御出身で、IT分野のイノベーションの場づくりを行う株式会社ウィズグループ代表取締役の奥田浩美氏から、「ワクワクすることだけ、やればいい!」をテーマに、地域から飛び出してグローバルな環境に身を置き、「自分のやりたいこと」を見つけ、それを実践するまでの道のりをお話しいただきました。青年国際交流事業で得た経験をどのように社会に還元していくかという難しい課題に取り組む際の一つのロールモデルとなる体験を共有いただき、参加者の皆さまは、多くの示唆を得られたのではないかと感じております。続いて行われたパネルディスカッションでは、「ワクワクすること」を実践している若い世代の4名のパネラーの経験を基に議論が展開される中で、参加者が今後自ら挑戦していくヒントが得られたのではないかと思います。

いずれのプログラムも今後の事後活動を行う上で大いに参考になったことと思います。

最後に、園実行委員長、春田鹿児島県 IYEO 会長を始めとする実行委員会の皆さま、鹿児島県を始めとする九州ブロック各県の IYEO の方々、鹿児島県庁の皆さまにおかれましては、コロナ禍の中、オンライン開催ということで様々な御苦労もあったことかと存じますが、このような素晴らしいプログラムを実現いただき、厚く御礼申し上げます。

参加者の皆さまには、今後も国際社会や地域社会に貢献する活発な事後活動を展開し、交流の輪を 大きく広げていただけるよう期待し、私の挨拶とさせていただきます。

## 日本青年国際交流機構(IYEO) 会長挨拶

日本青年国際交流機構第 38 回全国大会 Glocal Youth Leaders Summit (GYLS) 鹿児島大会報告書に寄せて

日本青年国際交流機構 会長 長末 辰也

昨年、一昨年に続いて今年もオンラインでの開催となりました。様々な理由からオンライン開催にする判断を下しましたが、参加者の皆さんや主催側のオンラインリテラシーの向上もあり、とても臨場感のある素晴らしい大会でした。

コンテンツは実行委員会のメンバーで何度もゼロからやり直しを繰り返し、今回の内容にまとまりましたが、直前までコンテンツ制作対応に追われ、結果的に広報期間が非常に短くなり若者層へのアピール不足に繋がってしまったことは大きな反省点ではあります。

それでも当日は多くの方に参加いただき、アンケートから読み取れる満足度は非常に高く運営 側としてはホッとしています。

コンテンツで非常に印象的だったのは、「やることより、やらないことのリスクの方が高い」という言葉でした。今回のテーマである「鹿児島から未来へ。ワクワクから踏み出す私の第一歩」。誰しも初めてのことにチャレンジするときには不安も心の抵抗もあることでしょうが、それがワクワクすることであればやるべきでしょうし、一歩踏み出してからは周りを巻き込みながら推進力を付けて進むことができるのではないでしょうか。私の経験からも、チャレンジしなかった場合は、あとで振り返った時にまさに、「やることより、やらないことのリスクの方が高かった」と感じると確信しています。そのようなメッセージが込められた話の内容に加え、スピーカーの方々の熱気とパワーが参加者へどんどん伝染していく様が感じ取れ、非常に高揚感を覚えました。

コロナ禍の影響で2年間内閣府青年国際交流事業もオンライン事業の開催となっている中で、 都道府県 IYEO とオンライン参加者との関係構築が難しい状況が続いており、今回の主催でもあ る鹿児島県だけでなく全国の都道府県 IYEO が厳しい組織運営に直面しています。その意味で、 今回の GYLS では、実行委員長をはじめ若いメンバーが企画・運営の中心となって動き、ベテラ ンがしっかりサポートするという形を取れたこと、そして企画そのものが成功したことで、実行 委員メンバーの成功体験となったことは非常に喜ばしいことだと思います。これを機にさらなる ワクワクを見つけ、それにチャレンジしてもらえればと思います。

最後に、今大会を開催するにあたり、内閣府の皆様をはじめ、鹿児島県庁関係者、鹿児島県教育委員会、大会関係者、及び一般財団法人青少年国際交流推進センターの皆様には多大なる御協力をいただきましたことに、鹿児島県 IYEO をはじめ、日本全国の日本青年国際流機構会員を代表し御礼を申し上げます。また、GYLS 実行委員会メンバーの皆さんは本当にお疲れ様でした。

## 一般財団法人 青少年国際交流推進センター理事長挨拶

日本青年国際交流機構第 38 回全国大会(Glocal Youth Leaders Summit) 及び第 29 回青少年国際交流全国フォーラム報告書に寄せて

一般財団法人 青少年国際交流推進センター理事長 駒形 健一

本年の全国大会は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、昨年度に引き続きオンラインでの開催となりましたが、園実行委員長を始め実行委員会の皆さん、鹿児島県 IYEO の皆さんの創意工夫が凝らされた企画と実行力のおかげで充実した大会になりました。また、開会式では、内閣府の黒瀬室長と鹿児県の塩田知事からビデオメッセージで心のこもった挨拶を頂戴しました。関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。パワフルなトークで参加者の心を揺さぶってくれた基調講演講師の奥田浩美様やパネラーの皆様のおかげで、お互いの絆を確認しつつ、多くの学びと感動を得ることができた上、青年国際交流事業の事後活動の意義を改めて実感し、コロナ禍の先にある自分の未来を目指して、グローカルリーダーとして前に進んでいくパワーを得られた大会になったのではないかと思います。

(一財) 青少年国際交流推進センターが主催する青少年国際交流全国フォーラム「スーパーパ ワー・ワークショップ」は、第1部の実践編・応用編のような構成で、奥田講師がファシリテー ターとなって参加者を巻き込みながら自らの価値観や「喜怒哀楽」という感情を考える機会とな りました。実際ワークショップに参加して自分のこれまでを振り返ってみましたが、国という組 織で働く中で、ともすると上司や組織にいかに自分が役に立つかという価値観があった中で、青 年国際交流事業に出会い、心を揺さぶられる経験をしながら大きく成長していく青年達を目の当 たりにして、理屈や頭が先にくる思考から、感情や心を大切にする価値観に変化してきたのでは と改めて感じました。参加青年ではなく国の仕事としてではあったものの、船の事業などの青年 国際交流事業に参加し内外の青年達の熱に触れることで、徐々に自分の内なる世界で新しい価値 観が芽生え、それが成長して今日の自分を形づくってきているのではないかと実感させられまし た。皆さんのように自らの意思で参加し人生を変えるような経験をしたのであれば、なおさら今 回のワークショップで気づいたものは多くあったのではないでしょうか。今回の経験をきっかけ に、自分の感情の歴史、心の変遷を振り返りながら、これから目指す未来に心の羅針盤をしっか り向けて、グローカルリーダーとしての一歩を力強く踏み出されることを願っています。皆さん には日本中、世界中に応援してくれる仲間がいるのですから、社会・地域のために為したいこと があればきっと実現できると信じています。

(一財) 青少年国際交流推進センターとしても皆さんの健闘を応援していきたいと思います。

### 第38回全国大会(鹿児島県)鹿児島県青年国際交流機構 実行委員長挨拶

日本青年国際交流機構第38回全国大会 「一歩先で見えた未来は」

第38回全国大会(鹿児島県)鹿児島県青年国際交流機構 実行委員長 園 翔太

日本青年国際交流機構第 38 回全国大会(Glocal Youth Leaders Summit)へ、国内外を問わず多くのご参加を賜り、誠にありがとうございました。本大会は、内閣府、日本青年国際交流機構、一般財団法人青少年国際交流推進センター、鹿児島県、鹿児島県教育委員会、そしてご登壇者の皆様、各都道府県 IYEO 会員の皆様の多大なるご協力により、無事に終了することができました。実行委員一同、深く感謝申し上げます。

さて、本大会では、「鹿児島から未来へ。"ワクワク"から踏み出す私の第一歩。」をテーマに、基調講演及びワークショップでは奥田浩美氏、パネルディスカッションでは三木アリッサ氏、矢澤麻里子氏、進行のファシリテーターとして加治屋紗代氏にご登壇いただきました。今回の大会を通して、一つの大きなキーワードであった「ワクワク」、それぞれが抱く「ワクワク」の背景にある感情をどう未来への一歩に繋げるのか、第1部では奥田氏、三木氏、矢澤氏の歩みやご経験、そして第2部では、ワークショップを通してご参加いただいた皆様ご自身の感情にも目を向ける時間であったかと存じます。奥田氏の言葉をお借りすると、「感情こそが価値を持つ時代」において、少しでも本大会が皆様の次なる「"ワクワク"から踏み出す私の第一歩」に繋がる機会となったことを心から願うばかりです。

また、本大会の開催そのものも、昨年度までの「全国大会」から「GYLS」としての開催という、新たな第一歩でございました。まさに大会を終えた今、その一歩を踏み出した先の未来に立っていることとなりますが、その一歩先で見えた未来は、再度奥田氏の言葉をお借りすると、「人が集まり、思いを強くすると、世界は絶対に変えられる」という確信に満ちた未来であったと感じております。100名を超える方々にご参加いただき、同じ時間、同じ場を共にして、未来への希望を共有できたことは、必ずやこれからの世界により良い変化を生むであろう集まりであり、同様に、主催及び共催である内閣府、日本青年国際交流機構(IYEO)が長年紡いできた国境を越えた人々の繋がりもまた、これからの世界により良い変化を生むものであると強く感じております。

最後に、今大会はフルオンラインでの開催となりましたが、少しずつ感染症による社会制限も 緩和されつつあるところ、本大会も一つのご縁として是非、世界をも動かしたこの薩摩の地、鹿 児島へどうぞお越しいただけますと幸甚です。鹿児島から、世界への愛と未来への希望を胸に、 ご挨拶と感謝の言葉とさせていただきます。本大会へのご参加、ご協力、重ねまして感謝申し上 げます。ありがとうございました。

## 第38回全国大会(鹿児島県)鹿児島県青年国際交流機構 会長挨拶

Glocal Youth Leaders Summit から踏み出した一歩

### 鹿児島県青年国際交流機構 会長 春田 千幸

今回、日本青年国際交流機構第 38 回全国大会を Glocal Youth Leaders Summit とリニューアルし、初めての開催となりました。日本全国各地、また海外を含め 100 名を越える多くの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。

本大会は「鹿児島から未来へ。"ワクワク"から踏み出す私の第一歩」をテーマにオンラインで開催しました。このテーマには、地方・都市部など住む地域に限らず、これから進学をしたり社会に出たりする人たちが、未来への一歩を前向きに踏み出す後押しができるイベントにしたいという思いを込めました。

私は生まれ育った鹿児島に愛着を持っています。しかし、昔からそうだった訳ではなく、田舎だということで鹿児島での暮らしを好ましく思わない時期もありました。そんな私が鹿児島の魅力を意識したのは内閣府青年国際交流事業でドイツを訪問し、訪問先で鹿児島を紹介したときです。鹿児島には、桜島や屋久島を代表とする豊かな自然、今年日本一を獲得した和牛をはじめとする美味しい食べ物、暮らす人の人柄など、外に出て気付くことがたくさんあります。そのような自身の経験を踏まえ、コロナ禍で外出制限もある今だからこそ、若い方々が自分たちが暮らしている世界の外について知る機会を作りたいと考えました。

第1部の基調講演では世界で若者のスタートアップを支援している奥田浩美氏から大会テーマでもある「ワクワク」が楽しいだけでなく、怒りや悲しみの気持ちも含め感情と向き合うことが大切だと教えていただきました。その後、パネルディスカッションの中では、スピーカーの皆さまの共通点に、海外での体験が挙げられて驚きました。普段と違うことをしてみる、新しい人に会うなど、チャレンジすることでこうであるべきと抑制されていた部分が解放され、自分らしさを生かした一歩を踏み出せると感じました。それに続く、第2部のワークショップでは、自分の感情や大切にしている価値観「スーパーパワー」について考えました。「スーパーパワー」は人それぞれですが、お話する皆さまの表情は明るく、これからの生活にどのように生きてくるかを想像して私は胸が高鳴り「ワクワク」しました。

今回のイベントは、いちばん若い方は中学生、高校生や大学生の皆さまにも参加いただきました。これから進路や働き方を考える皆さまは、未来の選択肢は無限大で、自分の進む道に迷うこともあるかもしれません。そんな生き方に迷い、自分自身を振り返るときに、本大会での気付きが役に立つと幸いです。自身の「スーパーパワー」は何か、その価値観を軸にして、次のアクションへ繋げていくと人生がさらに楽しいものになると思います。

開催にあたって、内閣府、鹿児島県、鹿児島県教育委員会をはじめ、携わっていただいた多くの皆さまにご尽力いただき、素晴らしい大会を運営することができました。また、実行委員には全国からメンバーが集まり、オンラインでの連絡のみに制限される中で協力し合い一つのイベントを作れたことで、新しい形でのイベント開催の自信になりました。また、コロナ禍に入り減っていた鹿児島での活動を再始動する第一歩となるものでした。今後も鹿児島を盛り上げる一つの力となるように活動を続けて参りたいと思います。

## 日程(全体スケジュール)

令和4年12月3日(土)

17:00-17:15

12:30-13:00 受付 13:00-13:15 第1部開会式 13:15-13:25 チェックイン 基調講演「ワクワクすることだけ、やればいい!」 13:25-14:00 講師: 株式会社ウィズグループ 代表取締役 ひろみ 浩美 氏 奥田 質疑応答 14:00-14:10 14:10-14:55 パネルディスカッション テーマ:「私が踏み出した一歩と、これから描く未来」 パネラー: 三木 アリッサ 氏 Cashi Cake inc. CEO ャざゎ まりこ 矢澤 麻里子 氏 Yazawa Ventures 代表パートナー まの しょうた 園 翔太 氏 2019年度内閣府青年国際交流事業 「東南アジア青年の船」事業参加青年 14:55-15:10 全体報告 第1部 閉会式 15:10-15:15 15:15-15:25 休憩 第2部 開会式 15:25-15:30 15:30-16:10 スーパーパワー・ワークショップ アイデアシェア / チェックアウト 16:10-17:00

第2部 閉会式

## 第1部 開会式

- 開会の言葉
   GYLS 鹿児島大会 実行委員長 園 翔 太
- 主催挨拶内閣府青年国際交流担当室 室長 黒瀬 敏文 (ビデオメッセージ)
- 3. 共催挨拶 日本青年国際交流機構 会長 長 末 辰也
- 5. 関係団体紹介(主催、共催、運営事務局、協力、後援団体)
- 6. 閉会



GYLS 鹿児島大会 実行委員長 <sup>その しょう た</sup> 園 翔 太





内閣府青年国際交流担当室 室長 「基本」 としょう 黒瀬 敏文



鹿児島県知事 <sup>しまた</sup> こういち 塩田 康一

## 第1部 基調講演



テーマ 「ワクワクすることだけ、やればいい!」

### (内 容)

あるきっかけで「敷かれた人生のレール」から外れ様々な価値観にもまれて形成された 奥田氏の価値観の原点とは?90 年代から現代にいたるまでの社会や働き方の変化から見 る、これからの職業選択やキャリア設計において大事になるであろう意識と価値観につ いて話を聞く。

おくだ ひろみ

●講師: 奥田 浩美 氏 株式会社ウィズグループ 代表取締役

≪プロフィール≫

鹿児島県生まれ。鹿児島大学卒業後インドに渡る。 ムンバイ大学(在学時:インド国立ボンベイ大学) 大学院社会福祉課程修了。1991 年に IT 特化の カンファレンス事業を起業。2001 年に 株式会社ウィズグループを設立。

2013年には過疎地に株式会社たからのやまを創業。

委員:経済産業省スタートアップ推進委員、

厚生労働省「医療系ベンチャー振興推進会議」委員、

環境省「環境スタートアップ対象」審査委員長など多数。

著書:ワクワクすることだけ、やればいい! (PHP 出版ほか)



#### ●講演内容

### 奥田氏の仕事:「未来を見ること」

奥田氏はまず、未来は現在とまだらに存在していると語った。時代の先端を行き、未来 の技術を用い仕事をしている人がいるように、奥田氏ご自身も、これまで様々な仕事に 携わって来た中で、未来にどういった社会課題があるかを考え働いてきた。

### 社会課題はビジネスになる: 奥田氏の経歴

奥田氏は屋久島の自然豊かな土地に生まれた。過疎地の教育に携わっていた父親の影響もあり、大学で福祉を学びにインドへ。広い世界を経験する。その時は、何もできず、自分の無力感を感じながらの帰国となったものの、日本へ帰国後、次のステップとしてITで社会を幸せにする活動を行うことを決意。そこでITの地域格差という課題を発見し、新しく事業を起こす。また、周囲に働く女性が少ないことに気づいた奥田氏は、女性同士で切磋琢磨して事業を行えるコミュニティを形成。「人が集まり想いを強くすることで、何かを変えられる」と考えた。しかし、社会の中で女性に投資することがまだまだ少ないという課題に直面し、投資の分野に携わることになる。「投資はジェットコースターの最先端に座らせてもらうこと」と話す奥田氏。それぞれの時代における社会課題に常に敏感に反応し、その課題に向き合いながら仕事をしてきた。

## グラグラ=ワクワク?原動力は愛と希望

様々な仕事を経験してきた奥田氏は、ご自身の人生を「片足しかつかない人生」と話す。片足しかつかないとグラグラする。でもそのグラグラは未来に足を置くときのサイン。それはつまりワクワクすることであると考えている。

奥田氏は「自分が世界に存在することで1ミリでもいいから何を増やしたいか?」を 自問し、「愛と希望」を増やしたいと考えた。そして、その自身の原動力をもとに、い かに時代に合わせたアクションができるかを考えるとき、以下の3つがキーになると話 した。

Why THIS? どうしてこれをするのか?

Why YOU? どうして私がこれをするのか?

Why NOW? どうして今これをするのか?

特に3つめのWhy NOW?を突き詰めることで、自分の原動力を時代に還元させていくことができると考えている。

### ワクワクを見つけるために①:喜怒哀楽を差別しない

感情こそが資源と話す奥田氏。喜怒哀楽のうち、マイナスな感情とされる「怒」「哀」を抑えようと、感情を隠してしまうと、自分の本当のワクワクが分からなくなってしまう。「怒」や「哀」といった感情も、自分のワクワクに必要な感情である。人生に起こった出来事とその時に感じたことを表にしてあらわす「感情グラフ」を描いてみるのも、ワクワク探しの一つの方法である。

### ワクワクを見つけるために②:私は何人の世界で生きている?

自身が何人の人といるときに仲間を作りやすいか、居心地がいいのかを考えるのも、ワクワクを探すきっかけになる。奥田氏ご自身は、学生時代の「50~500 人」の規模では共感を得られる人には出会えなかったものの、家族「5人」でいるときは心地よく、社会人になって「5000 人」のなかで働くようになってからも良い出会いがあったとのこと。

## Butterfly Effect (バタフライエフェクト)

蝶の舞う風が微風ながら何かのきっかけを起こすように、私たちの人生において小さいことだと思う出来事でも、必ず何かにつながっているはずだと話す奥田氏。これから(もしくは今まさに)ワクワクを探す参加者の背中を最後にやさしく押してくださった。

### 質疑応答

O1: (男性の参加者から) 働く女性のためにできることは?

A1:まずは小さなことから。食べ終わったお皿をきちんと下げるところから始める。女性の方も然り。慣習的に「女性がするべき」と思われていることを断るなど、少しだけ嫌がられることをしてみる。

O2:いろんなことを同時に行う秘訣は?

A2:いろんなことをしていると、必ず何かしらこぼす。そのこぼしたものを仲間に分ける。私のところにくるチャンスなのだから良いチャンスに決まっているのよっていう風に。

## 第1部 パネルディスカッション

テーマ:「私が踏み出した一歩と、これから描く未来」



### 【概要】

様々な分野で活躍している方々に、初めてのことをやってみたときのきっかけや気持ち、多くの失敗を経て今の自分の仕事と巡り合った軌跡から考える仕事の本質と自分の価値観。これからの未来のしごとやワクワクについて話を聞く。

■ モデレーター: 株式会社 TYH グループ 代表取締役 <sup>かじゃ さよ</sup> 加治屋 紗代 氏



≪プロフィール≫

鹿児島県出身。専門商社と国際総合物流企業経験後、通信会社代理店のスーパーバイザー(SV)を担当。主婦を中心とする営業チームを作り、新規契約客のみで年間売上2億円を達成し、1200社ある代理店の中でチームを新規売上1位へ導く。現在は鹿児島市中央町にあるLi-Ka1920の5階フロアの運営事務局の管理を担当。

■ パネラー①: Cashi Cake inc. CEO <sup>みき</sup> 三木 アリッサ 氏

≪プロフィール≫

早稲田大学法学部在籍中にプリザーブドフラワー専門ブランド立ち上げに参画し、楽天ナンバーワンブランドに成長。その後、日本酒ベンチャーで新ブランド立ち上げや、藤巻百貨店の新規事業立ち上げに寄与。またイスラエル専門商社にて、新規事業開発マネージャーとして、過去最高売上を半年で達成。2019 年 11 月に MISAKY.TOKYO(ミサキ・トウキョウ)をロサンゼルスでローンチ。Forbes JAPAN「今年の顔 100 人(2021)/Forbes JAPAN「地球で輝く女性 100 人最年少選抜(2018)/Business Insider Japan「Game Changer 2019」選出メンバーの一人。

■ パネラー②: Yazawa Ventures 代表パートナー ゃざゎ まりこ 矢澤 麻里子 氏



≪プロフィール≫

ニューヨーク州立大学を卒業後、BI・ERP ソフトウェアのベンダにてコンサルタント及びエンジニアとして従事。国内外企業の信用調査・リスクマネジメント・及び与信調査モデルの構築などに携わる。その後、サムライインキュベートにて、スタートアップ 70 社以上の出資、バリューアップ・イグジットを経験した後、米国 Plug & Play の日本支社立ち上げ及び COO に就任し、150 社以上のグローバルレベルのスタートアップを採択・支援。出産を経て 2020 年 Yazawa Ventures として独立。

■ パネラー③:「東南アジア青年の船」事業参加青年その しょうた園 翔太 氏

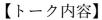


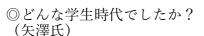
≪プロフィール≫

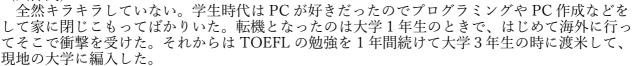
2019 年度内閣府青年国際交流事業「東南アジア青年の船」 事業参加青年。京都市出身。鹿児島大学への進学を機に鹿児島へ。学生時代に参加 した「東南アジア青年の船」事業では、ニックネームを「SATSUMA」と名乗り、 船内や寄港地活動で鹿児島を世界へ発信。夢は、「鹿児島に航空会社を作るこ と」。

### 【トークテーマ】

- ・自己紹介
- どんな学生時代であったか?
- 海外と接する きっかけは?
- ・将来の夢はいつ 決まったか?
- 経験のないことに 挑戦するには?
- ・失敗から学べること
- これから描く未来 について







当時インターネットが身近になく、海外の情報から離れていたからこそ、実際に海外を訪問したことが私の人生で「銅鑼が鳴った」(この場では「価値観を変えた」などの意)瞬間であった。

#### (三木氏)

学生時代、キラキラしていない。学生時代は周囲になじめなかった。25歳の時に「Forbes JAPAN 地球で輝く女性 100 人」に選ばれて人生が 180 度変わった。また自身の「銅鑼が鳴った」瞬間は、イスラエルに行ったときである。私はそこで「私はなんでもやっていい」ということに気づいた。イスラエルでは女性が子育てしながらキャリアを形成できる環境が整っていた。日本では子供がいながらキャリアを描くことが難しいと思っていたからこそ、細かい知恵を出し合って工夫してキャリアを形成するイスラエルの女性たちに出会い、価値観が変わった。

#### (鼠氏)

21歳の誕生日に NY を単身で訪問したことが私の銅鑼が鳴った瞬間。エンパイアステートビルの展望台に立った時、初めて世界の広さを感じた。学生時代は学校になじめず、親とも反りが合わないなかで、環境を変えるため大学進学時に鹿児島県へ行くことを決心。入学後に再度帰郷し、周囲に向き合うも何も変わらない環境に苦しみ、NY へ飛び出したときにはじめて、今の自分へつながった。

#### ◎将来の夢はいつ決まったのか

#### (三木氏)

私自身は27歳のときに将来の夢が決まったが、夢というものは自分の中で腹落ちした瞬間に加速するものだと思っている。自分探しをすることは非常に重要であり、だからこそ自分探しをすることに必死にストラグル(=もがく)してほしい。夢が見つかることは別に早ければ早いほどいいというものではない。人生100年時代、焦らないでゆっくり自分の核となるものを見つけて熟成していってほしい。

#### (矢澤氏)

自分のやりたいことは人生の局面で変わるものである。その中で自分らしい選択をするためにはもがくしかない。私自身、自分のやりたいことを人生の様々な局面で自問自答したことで、初めて仕事を通じて幸せを循環させたいと気づき、28歳のときに VC 立ち上げに至った。いろいろやってそのたびに考えていれば、いつか腹に落ちる瞬間が来るのでそれまではストラグルすることを大切にしてほしい。



#### (鼠氏)

「東南アジア青年の船」に乗ったとき、鹿児島県を世界に発信したいと思っていた。その思いを胸に事業経験後は鹿児島県庁へ入庁したが、やりたいことを抱えすぎて半年間立ち止まってしまったこともあった。今まで何一つ「形にする」ということができていなかったが、今日ついに自分のやりたかったことの一つが形になってうれしかった。

人のチームワークや自分なりのストラグルを実現させたこの経験を生かして、これからも鹿児島県で仲間を集めてまた旗振り役としていろいろなことをどんどんやっていきたい。

#### ◎日本の人々はなぜ自己肯定感が低いのか

#### (矢澤氏)

キーワードは海外だと考える。

自分とは違う環境へ飛び込み、自分とは違う人に出会うことで初めて自分たちの価値に気づけるのではないか。

#### (園氏)

外からの人を受け入れる活動を全国の IYEO で行うことで海外との交流を盛り上げていきたい。

### (三木氏)

日本人特有の「奥ゆかしさ」はヨーロッパ圏では評価されない。 奥ゆかしさをどうグローバルへアジャストするかが大切である。日本の文化やフィロソフィーは 誇るべきであるから、それにグローバル力をどのようにつけていくかが今後重要である。

### ◎挑戦したいと考える人々へのメッセージ

### (三木氏)

私は挑戦しないことがリスクだと考える。人生においてリスクをゼロにする、ということはできない。最悪のケースを考えて対策はとるべきであるが、ぜひとも新しい道を拓くことがチャンスになりうるのだ、という考えを持ってほしい。もちろん一朝一夕には考えを変えることはできない。まずはネガティブな考え方をしてしまう自分を認知して、少しずつ行動を変えることが大切。

#### (矢澤氏)

まずは自分が考えているリスクや不安についてそれらととことん向き合うこと。また、同世代で成功している人のほとんどに共通するのは早いうちからリスクを取って挑戦していること。挑戦する時期というものは常に今が一番いいのだから、チャレンジできない理由に向き合ってなるべく早く挑戦してほしい。

そしてそこで得た失敗はバネになる。自分が仕掛けて得た失敗も自分が予期せず生じた失敗も全部良い方向へと次につなげてほしい。

#### (園氏)

自分のやりたいことが止まってしまい、ふさぎ込んでしまうときもあったが、自分のやってみたいことをすべて抱えて動いてみたことで、結果的に気持ちも前向きになった。まずはやれるだけやってみて、立ち止まらないことが大事である。諦めず動き続けることを私自身今後も大切にしていきたい。

#### ◎経営者として一緒に働く仲間をどういう基準で選んでいるか (三木氏)

能力ではなく、代表である自分をどれだけ信じてくれる人に出会えるかが大切である。 そのために自分の夢を研ぎ澄ますこと。心から願っているものにこそ、人はついてきてくれるからそれをどう探すかストラグルすることが大事。

#### (矢澤氏)

人を選ぶことについてはたくさん失敗してきたが、結局は発信すること、自分らしさを大切に し続けることこそが人をひきつける近道である。

## 【参加者の集合写真】







## 第1部 閉会式

- 2. 閉会



## 第2部 開会式

1. 主催者紹介

日本青年国際交流機構 会長 長末 辰也

- 一般財団法人青年国際交流推進センター 理事長 駒形 健一
- 2. 関係団体紹介(運営事務局、協力、後援団体)
- 3. 閉会





日本青年国際交流機構 会長 ながすえ たっゃ 長末 辰也

一般財団法人青年国際交流 推進センター 理事長 覧形 健一

## 第2部 スーパーパワー・ワークショップ

講師:株式会社ウィズグループ 代表取締役 奥田 浩美 氏 株式会社 TYH グループ 代表取締役 加治屋 紗代 氏



奥田 浩美 氏

加治屋 紗代 氏

#### ■ねらい

自分が何にワクワクするのか、自分がやりたいことは何なのか、それが明確になる時期は人それぞれ異なり、明確な回答や結論を急ぐ必要はない。自分が大切にしている価値や、自分が世界にもたらす価値、すなわちスーパーパワーは参加者自身の心の中にあって、それが社会と接点をもったときに大きなエネルギーになる。このワークショップを通して、今まで気付いていなかった自分の心の中の感情に向き合い、感情を豊かにしていくことで、いつでもワクワクできる準備を整えてほしい。

#### ■ワークショップの流れと内容

2つのワークについて、そのワークを実施する目的や、講師ご自身の回答を紹介いただきながら、各自内省する時間が設けられた。自分のワークの回答を ZOOM のチャット欄やブレイクアウトルームの場でお互いにシェアし、それらの内容について奥田氏や加治屋氏にフィードバックいただいた。

### 【ワーク1】 私の人生が存在することで世の中に何を増やしたいか?

第1部の基調講演を簡単に振り返り、奥田氏がこれまでの人生で挑戦してきたことの 先には「愛」「希望」「英智」があり、これらを少しずつでも良いので増やしたいとい う想いでこれまで続けてこられたこと、それらが奥田氏のスーパーパワーであることを ご紹介いただいた。

自分が大切にしている価値や、自分が世界にもたらす価値はそれぞれあると思うが、 なかなか出てきにくい。そのヒントとして、身近なものでも良いので自分が存在するこ とで世の中に何を増やしたいかについて考えた。

〈ワーク1のスライド〉

〈ワーク2のスライド〉



### 【ワーク2】「喜怒哀楽」の感情:6歳だった時の自分を思い浮かべて日記を書く

AIの技術が進んだ時代では、感情こそが価値を持つ時代がきて、自分がこれをしたい!自分はこう思う!という内容こそが大切になってくる。また、楽しいことだけやっていても、ワクワクしないことや「怒」と「哀」の感情を隠してしまうと、やりたいことが見えなくなり、ワクワクしなくなること、喜怒哀楽を差別せずそれぞれの感情が大切であることについて説明いただいた。

どのような時に自分が「喜怒哀楽」の4つの感情を抱くのかについて内省し、6歳の時の自分を思い浮かべながら「喜怒哀楽」それぞれの気持ちになった時の日記を書いてみた。

### 〈ブレイクアウトルームの様子〉

### 〈全体でブレイクアウトの内容をシェア〉





#### ■振り返り

ブレイクアウトの内容を全体でシェアする場で、「感情は生ものであると感じた」「6歳の時の体験が今の仕事に繋がっているというお話を聞くことができた」「6歳の頃は感情が豊かだったのに、大人になると感情をおさえてしまっていることに気付いた」「怒りの感情を感じる場面がなかなか思い浮かばなかった」「仕事をする上で怒りと悲しみを減らさざるを得なかった、すると同時に喜びと楽しい気持ちも減ってしまった」などの意見が紹介された。奥田氏からは、「怒」「哀」の感情を押え込むのではなく、自分自身がどのようなことに怒りや悲しみを感じるのかに気付くことが、その気持ちをマネジメントするうえで必要であり、それらの感情を放出することで楽しい気持ちやワクワクのもとになる、というフィードバックがあった。今回、普段の生活では見落としがちな自分の感情に向き合い、感情を豊かにすることの大切さに気付くきっかけとなったのではないかと考える。

また、前半に自分のスーパーパワーについて言語化しておくと、自分がやりたいことへのチャンスをつかみやすいとのお話があった。このワークショップで、自分が世界にもたらしたい価値、スーパーパワーについて内省し、チャットやブレイクアウトの場で言語化することができたと思う。この一歩から、参加者皆さんそれぞれのワクワクが広がっていくことを楽しみにしている。

## 第2部 閉会式

- 1. 開会
- 2. 主催者代表挨拶
  - 一般財団法人青年国際交流推進センター 理事長 駒形 健一
- 3. 大会旗引継ぎ
- 4. 次期開催県挨拶 とっとり青友会 第39回全国大会実行委員長 柿本 和也
- 5. 閉会の言葉 鹿児島県青年国際交流機構 会長 春田 千幸



一般財団法人青年国際交流推進センター 理事長 こまがた けんいち 駒 形 健 一



鹿児島県青年国際交流機構 会長 はるた ちさき 春田 千幸



鹿児島県青年国際交流機構 第 38 回全国大会 GYLS 鹿児島大会 実行委員長 その しょうた 園 翔 太

とっとり青友会 第 39 回全国大会 実行委員長 <sup>かきもと かずや</sup> 柿 本 和也



## 参加者アンケート

(回答数: 49 名)

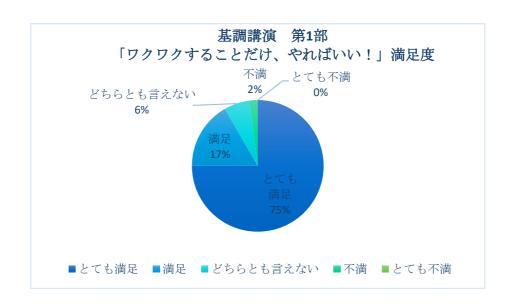
## 参加者属性

(第1部参加者:最大接続数103名、第2部参加者:最大接続数:53名)



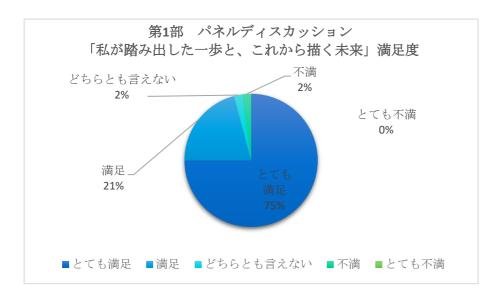
## 第1部 基調講演

「ワクワクすることだけ、やればいい! |



## 第1部 パネルディスカッション

## 「私が踏み出した一歩と、これから描く未来」

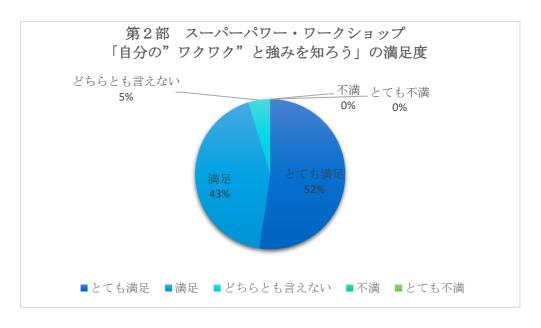


### 【第1部の感想】

(アンケートより抜粋)

- ・基調講演のお話では「喜怒哀楽」を大切にするという話が印象に残り、確かに、怒や 哀が行動するエネルギーとなり、喜につながることはあるなと思いました。パネルディスカッションでは、エネルギッシュな語りに元気をもらいました。
- ・参考になるお話を聞けて良かったです。女性リーダーがなんとも頼もしく感じました。
- ・とても面白い内容でした。講師の奥田様やパネラーの皆様の率直なお話から、自分の 感情の声をよく聞くことや、成功の反対は失敗ではなくやらないこと、失敗すること で自分が何に向いてるかがわかることなどがわかりました。最近新しい挑戦に踏み切 れてないなぁとちょうど思っていた頃だったので、もう一度自分に耳を傾けつつ心の 指す方向へ行きたいなと思いました。
- ・講師の先生の講演もパネリストの皆さんの話も様々なワクワクを経験したからこその 結果であり、大変魅力的でした。今後積極的に挑戦してみる勇気をもらえ、良い刺激 を受けることができました。コロナ禍であきらめなければいけないことも多かったで あろう高校生や大学生にももっと聞いてもらいたかったのが、すごく残念です。
- ・パネルディスカッションでは画面越しでもパネラーの皆さんの熱量が伝わってきて楽 しかったのです。オーディエンスからの質問の時間がもっとあってもいいと思いまし た。

## 第2部 スーパーパワー・ワークショップ 「自分の"ワクワク"と強みを知ろう」



### 【第2部の感想】

(アンケートより抜粋)

- ・自分を見つめ直す時間になりました。
- ・新たな自分の発見がありました!
- ・自分の正直な感情に向き合うことができました。
- ・1日かけてするワークなんだろうなぁと思いました。その触りの部分だけでも体験させていただけたので、自分でちょっと考える時間を持とうかなと思いました。
- ・第1部の内容を引き継いだもので、行動の源泉として自分の感情を大切にする、感情に蓋をしないというのは大切な事と感じました。そのうえで行われたワークショップを通じて自分のマインドを整理できたのは自己理解にもつながりました。
- ・why this? why you? why now?の視点で考えていくことの大切さを学べました。また 財産としての感情の存在や、怒・哀の感情を隠すと、やりたいことが見えにくくなる という視点も勉強になりました。
- ・時間があればもっといっぱいいろんなこと聞きたかったです。

### 【イベント全体への感想】 (アンケートより抜粋)

- ・とてもエネルギーを感じられる時間で、empower & encourage されました!
- ・経営者として走り始めたばかりですので、非常に勉強になりました。自宅にいながら にして、このようなエネルギッシュで臨場感ある大会に参加できとても楽しかったで す。運営の皆様、これまで大変だったかと思いますが、素晴らしい機会をありがとう ございました。
- ・自分自身の背中を押してもらったと感じました。これからもチャレンジしていきま す。ありがとうござました。しっかりと次のステージを構築したいと考え動きます。
- ・ポジティブで楽しい、まさにワクワクするお話をありがとうございました!失敗を失 敗と捉えないで、そこから学ぶ、本当にその通りですね。お話をしてくださった奥田 さん、パネリストのみなさん、みなさんとてもチャーミングで人間的な魅力にあふれ ていらっしゃいました。こんな場を参加者として一緒に共有させて頂けて感謝です!

### 【その他、お気づきの点や感想】

- ・次にGYLSやブロックイベントをされる運営側の方に、「開会式のビデオメッセージどうして聞こえなくて(最初)どうしたら音が聞こえるようになったのか」、注意点としてアドバイスをいただけたら、他のイベント開催都道府県の参考になると思いました。
- ・聞き直したいところや参加できなかった方も見られるようにアーカイブ視聴もできた ら嬉しいです。
- ・とても楽しい時間でした。準備も運営もお疲れ様でした!
- ・運営お疲れ様でした。早く皆さんと対面でお会いできる日が来ることを願っておりま す。

アンケートにご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

### ~これ以降は参考資料~

## 日本青年国際交流機構&鹿児島県 IYEO の活動紹介

## 日本青年国際交流機構(IYEO)とは

## **International Youth Exchange Organization of Japan**

#### 【どんな団体】

内閣府(総務庁・総理府)等の青年国際交流事業に参加した日本青年による事後活動組織

### 【活動指針】

## 「共生社会の実現に向けて、生きる力を発揮しよう」

人々の交流がより一層スピード感をもち、混ざり合うこれからの社会においては、幅 広い視野を持って柔軟に新しい取組を考え、実行できる人材が必要とされています。私 たちは、世界につながる IYEO の全国ネットワークを活用し、青少年及び広く一般を対象 に、多様な価値観と出会う楽しさを作り続けることによって、地域の国際化と次世代リ ーダーの育成を目指します。

- 1. 多様な交流で地域と世界の距離を縮めよう
  - 自分の暮らす地域への理解を深め、地域への誇りと当事者意識を持ち、 国際交流活動を推進します。
- 2. 次世代のグローカルリーダーを育てよう

世界各国との交流や視野を広める機会を青年と共につくり、青少年の 国際的な友好や相互理解の促進と協調精神を高めることで、 地域から世界に向けてグローカルに活躍する次世代のリーダー人材を育成します。

3. 多様な関係者と協働し社会課題を解決しよう

会員のリーダーシップ、ネットワーク、専門性を活用し、 社会課題の解決に取り組むことで、地域に暮らす一人ひとりが人間性を高め、 だれもが生き生きと暮らせる社会の実現に貢献します。

### 【内閣府青年国際交流事業】

### ①目的

内閣府の青年国際交流事業は、世界各国の青年との交流を通じて、相互の理解と友好を促進するとともに、国際的視野を広めて、国際協調の精神を養い、次代を担うにふさわしい青年を育成することを目的としています。

各事業において、我が国及び諸外国の参加青年は、世界的視野に立った共通課題の意見交換、 自国の文化の紹介などの各種交流活動や、産業・文化・教育施設の視察、ホームステイなどの活動を行い、友好、親善を深めます。

各事業に参加した日本青年たちは、日本青年国際交流機構(IYEO)を組織し、海外で得た貴重な体験をいかし、地域社会、あるいは職域などにおいて社会貢献や国際協力等の促進のための諸活動を行っています。

## ②5つの事業(令和5年3月下旬~4月上旬を目途に、来年度事業の募集をする開始する予定です。)

## 国際社会 青年育成事業

昭和、平成の皇太子殿下の御成婚記念事業を、2019年のお代替わりを契機に発展させた事業です。世界各地域ごとの課題をテーマに設定し、当該課題を抱える2か国に日本青年を派遣して現地青年とのディスカッション、施設訪問及びホームステイを行います。また、帰国後は、派遣先から招へいした外国青年

と国際青年交流会議に参加し、テーマに基づくディスカッションを通じてプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めます。(18 日間)



## 日本·中国 青年親善 交流事業

1978年の日中平和友好条約の締結を記念し、1979年から開始された日中両国政府による共同事業です。文化紹介やホームステイを通した交流とともに、ビジネス環境・就職・ボランティアの状況などについて、両国の共通点や相違点などを掘り下げて考える機会ともなる大学生との意見交換、グローバルに飛躍を

とげる中国の先進企業訪問、起業をめぐるビジネス制度等に関連する施設の訪問等を行う多彩なプログラムです。(12 日間)



## 日本・韓国 青年親善 交流事業

1984年の日韓両国首脳会談における共同声明の趣旨を踏まえ、1987年から開始された日韓両政府による共同事業です。文化紹介やホームステイを通じた交流、地球環境、文化、教育、社会福祉等の各種施設、先進企業の訪問やディスカッション等を行います。これらを通じて、日韓関係の将来に向けたありようについて踏み込んで考え、どのような領域で青年たちが東アジア地域の発展に貢献できるのかを考えてゆく機会ともなります。また、日本に招へいした韓国

青年と日本青年との合宿文化交流会等 を行っています。(15 日間)



## 「東南アジア 青年の船」 事業

1974 年に開始したわが国と ASEAN 諸国との共同事業です。ASEAN10 か国の青

年と船内等で共同生活をしながら、ディスカッションや文化交流を行います。東南アジア各国から選びぬかれた青年とのネットワークを構築するとともに、アジア地域の未来を担う人材の育成を図ります。(約40日間)



## 「世界青年の 船」事業

1967年度開始の「明治百年事業」にルーツがある事業です。毎年異なる世界10か国から集まった外国青年と船内等で共同生活をしながら、ディスカッションや文化交流を行います。

プロジェクトマネジメントや異文化対応 を、理論・実践の両面で強化することに 重点をおいた事業です。(約30日間)









出典:内閣府ホームページ https://www.cao.go.jp/koryu/

## 鹿児島県青年国際交流機構(鹿児島県 IYEO)

#### 【活動指針】

国際理解を深め、国際親善に寄与し、 もって広く社会に貢献する

- ・国際交流、異文化交流の機会作り
- ・未来を担う次世代リーダーの育成
- ・鹿児島の魅力発信

#### 【これまでの取り組み】

- ・内閣府 青年国際交流事業 地方プログラム活動 (海外青年と鹿児島の青年の交流事業)
- 青年国際交流事業への参加希望者の支援
- ・鹿児島の地域特性や異文化交流などをテーマにした研修 会の開催
- ・熊本地震復興へむけた支援活動

内閣府 青年国際交流事業 地方プログラム活動



異文化交流イベント





鹿児島の情報発信イベント



鹿児島が大好きなメンバーで 楽しく活動しています!







KAGOSHIMA\_IYEO

公式 Facebook



つきましては、鹿児島県 IYEO の今後の活動のため、私たちの活動に御賛同、御支援いただける方は、御寄付をお願いいたします。

寄付用 QR コード

<寄付金額> 1 口 1,000 円 (何口でも可)

お問い合わせ先: GYLS 実行委員会 gyls.committee@gmail.com



## 鹿児島県の魅力紹介



全国的には指宿、霧島といった二大温泉郷が有名ですが、火山が多い鹿児島県では、良質の温泉があちらこちらから湧き出ています。鹿児島市内にも温泉の源泉がなんと 280 ほどあり、いわゆる「銭湯」と呼ばれる施設も、そのほとんどが天然温泉という贅沢。価格もリーズナブルなので、地元の人とおしゃべりをしながら入浴すれば、ここぞという穴場スポットを紹介してくれるかもしれません。

## 源泉数全国第2位 温泉大国



約2万6千年前から噴火を繰り返し、繰り返しして誕生した桜島。 以前はその名のごとく錦江湾にぽっかりと浮かんだ「島」でしたが、 大正3(1914)年の大噴火によって大隅半島と陸続きになりました。島の東にある黒神神社の鳥居は、そのときの溶岩で埋もれてしまい笠木のみを地上に残し、噴火のすさまじさを伝えています。桜島は、現在も活動している活火山ですが、フェリーなどで渡ることが可能。溶岩流でできた大地を踏みしめながら、噴煙をあげる火山の様子を間近で観察すれば、地球が生まれた頃の壮大なエネルギーを体感できるでしょう。

## 大地のパワーを感じる 桜島



## 日本最初の国立公園とジオパーク



鹿児島県と宮崎県にまたがる霧島山は、「韓国が見える」と いう言い伝えがある韓国岳を最高峰(1700m)に、東西 22km、南北18kmの範囲に20あまりの火山が脈々とそび え、周辺には大浪池をはじめとする火口湖をたたえていま

豊かな自然に囲まれたこの一帯は、四季折々の美しさや雄大 で変化に富んだ景観が魅力です。昭和9年3月に日本ではじ めて国立公園に指定されました。また、平成22年9月には 霧島山を中心とした環霧島地域が「自然の多様性とそれを育 む火山活動」をテーマに日本ジオパークに認定されました。 霧島ジオパークには、「景観、火山の博物館、植生、歴史・ 神話」の4つの魅力があります。ぜひ日本ジオパークに認定 された霧島ジオパークを堪能してください。

## 鹿児島の農林畜産業











農業・畜産業



オクラ収穫量









さとうきび収穫量 45万2900トン(全国第2位)

かぼちゃ収穫量 8510トン (全国第2位)

鹿児島県は全国屈指の農業県です。本土でも南端に位置す る温暖な気候を活用した園芸や畜産が盛んです。 また「か ごしまブランド商品」として、様々な農畜産物を世界や全 国に出荷しています。鹿児島県の農業産出額は全国第2位 (平成30年)です。※平成30年度作物統計より











離島面積は全国一、海岸線の総延長は全国第3位という海 の恵みをたっぷり受けている鹿児島県。







林業

鹿児島県の森林面積は 585.575ha です。素材の生産高は全国第 9 位、まきの生産高は全国第 1位です。鹿児島県の竹林面積は 16,000ha で全国の竹林面積の 24%を占め、全国一の竹林面 積を有しています。全国一の竹林面積から生産されるタケノコも生産量全国第1位です。



鹿児島県観光サイト

かいしまの旅

かごしまの旅

https://www.kagoshima-kankou.com/



もっと鹿児島を知りたい方は OR コードを読み込んでみてね!

# 鹿児島の日本一!

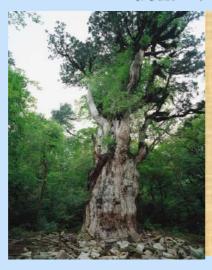


## 大根の王様!さくらじま大根



さくらじま大根は直径 20~30 cm、重さ 10~20 kgもあります。柔らかく甘味があり、生でも煮てもおいしい、まさに、大根の王様です。平成 15(2003)年に生産された重さ 31.1kg、胴回り 119 cmの大根は、世界一重い大根としてギネスブックに登録されました。

## 樹齢 7,200 年 縄文杉



屋久島にある縄文杉は、いろいろな説がありますが、樹齢7,200年の日本一長生きともいわれる杉で、昭和41年に発見されました。木の幹周りは16.4メートル、高さは25.3mで、表面には"こぶ"のようなデコボコがある立派な風格の木です。屋久島では、樹齢1,000年以上の杉が「屋久杉」と呼ばれ、それ未満の杉は「小杉」と呼ばれています。

## 日本で一番宇宙に近い県



日本のロケット打ち上げ施設は鹿児島 県にしかありません。「種子島宇宙センター」からは、主に技術試験衛星や 地球観測(かんそく)衛星などの実用 衛星が打ち上げられています。また、 「内之浦宇宙空間観測所」からは、主 に研究目的の天文観測衛星や惑星探査 機などが打ち上げられています。

# まだまだあるよ!日本一!



1位 日帰り温泉数

1位 焼酎消費量

1位 焼酎酒造場数

1位 青年海外協力隊隊員数

1位 小学生・お手伝い率

| 位 中学生保護者の学校行事参加率

1位花•植木屋店舗数

1位 25歳以上ゲートボール人口

1位 20~30 代男女比

1 位 現役力士出身地

1位 養殖ブリ漁獲量

1位 熱中症救急搬送者数

1 位 高齢者の熱中症救急搬送者数

1位 豚飼育頭数

1位 肉屋店舗数

1位 弓道場数

1位 キャンドゥ店舗数

1 位 ガソリンスタンド数

1位 酢消費量









参考:都道府県別統計とランキングで見る県民 (https://todo-ran.com/)

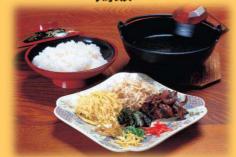
## 魔児島 NEO がおススメ 来たら必ず食べてほしい かごしきのうまいもん!

## 黒豚しゃぶしゃぶ



薄切りの豚肉をだしにくぐらせて 特製のポン酢や塩で!

## 鶏飯



ご飯に鶏肉・椎茸・錦糸卵・パパイヤ漬け等を乗せて 鳥だしをかけて食べる!給食でも出ます!

## 鹿児島ラーメン



定番は豚骨や鶏ガラスープ。意外とあっさり食べられる。付け合わせのお漬物も相性抜群。

## きびなごのおさしみ



県内全域で獲れるが、鮮度が短いため鹿児島 で獲れたてを食べてほしい。酢醤油が美味!

### 鹿児島黒牛のステーキ



2022 年和牛オリンピックで 内閣総理大臣賞受賞の良質な牛肉を贅沢に



新鮮な鶏肉のおさしみ スーパーでも売っている身近な味!

## 回るソーメン流し



夏に家族で1度は行く机上で回るソーメン流し!マスの塩焼きと一緒に。

## うなぎ



実はうなぎの養殖日本一。
ふっくらとした焼き上がり。

# かごしまの伝統工芸

## さつま切子



薩摩藩のガラス製造は、島津家第27代当主の斉興が、 江戸から招いたガラス職人に薬ビンをつくらせたのが始まりです。後を継いだ斉彬は着色ガラスを研究させ、透明ガラスに色ガラスを被せ、カットを施して模様を刻む「薩摩切子」を完成させました。しかしながら、薩摩切子は明治10年の西南戦争で完全に途絶えたと考えられています。現在製造されている薩摩切子は、昭和60年に薩摩切子ゆかりの地、鹿児島市磯で再興されたものです。

## 薩摩焼(白薩摩・黒薩摩)



薩摩焼は大きく「白薩摩」と「黒薩摩」に分けられます。気品がある白薩摩は藩主の御用窯から発展したもので、象牙色の表面に貫入といわれる細かなヒビが入っているのが特徴です。一方、黒い光沢を持ち素朴な温もりを感じさせる黒薩摩は、庶民のための生活の器としてつくられ、暮らしに溶け込んでいます。

## 大島紬

1,300年の歴史を持ち、絹織物の最高傑作といわれています。30数工程もある緻密な手作業により、図案から織り上がるまで1年以上かかるものもあります。大島紬独自の技法「テーチ木泥染め」は、7世紀中頃から行われていた古代染色の技法を取り入れたものです。緻密な絣模様や、軽くて暖かく、しなやかで着くずれしないなどの優れた特徴があります。



## 実行委員名簿

実行委員長 園 翔太 2019年度「東南アジア青年の船」事業

副実行委員長 川添 賢史 2000年度「東南アジア青年の船」事業

副実行委員長 澤村 瑛 2019年度「日本・中国青年親善交流」事業

実行委員 土井 敦 2010年度地域コアリーダープログラム事業

実行委員 高田 奨 2012年度地域コアリーダープログラム事業

実行委員 春田 千幸 2018年度地域コアリーダープログラム事業

実行委員 長末 辰也 2000年度「世界青年の船」事業

実行委員 佐々木 裕子 2000年度「世界青年の船」事業

実行委員 角田 絢子 2003年度「世界青年の船」事業

実行委員 有吉 美幸 2010年度国際青年育成交流事業(カンボジア)

実行委員 稲垣 莉奈 2015年度「世界青年の船」事業

実行委員 大野 絢子 2015年度「日本・韓国青年親善交流」事業

実行委員 半澤 優里 2016年度「世界青年の船」事業

実行委員 横倉 萌子 ローカルユース、大阪府青年国際交流機構事務局長

実行委員 栗木 みどり ローカルユース、長崎県青年国際交流機構



# 待つほどに、その旅は深まっていく。

さらに遠くへ旅をしてみたい。憧れのあの地を訪れてみたい。 今は難しくても、「待てば海路の日和あり」という ことわざにあるように、その思いが叶う日は必ず訪れます。 そして、待てば待つほど、旅は思い出深いものとなるでしょう。 にっぽん丸は、感染症予防対策を徹底して、

皆様との再会をお待ちしています。



撮影:三好 和義